

NEWSLETTER No.111

ISSN 1340-5578

TOYŌ ONGAKU GAKKAI KAIHŌ
The Society for Research in Asiatic Music January 30, 2021

一般社団法人
東洋音楽学会

会報

第111号

発行 一般社団法人東洋音楽学会

事務所 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号 TEL/FAX 03-3832-5152

E-mail : LEN03210@nifty.com ホームページ : <http://tog.a.la9.jp>

目次

新会長挨拶	1
第71回大会レポート	2
通常理事会・総会議決事項のお知らせ	8
臨時理事会議決事項のお知らせ (役員の役割分担含む)	8
会員の受賞	8
最新メールアドレス登録などのお願い	9
第38回田邊尚雄賞アンケートのお願い	9
会費納入のお願いと会費割引制度のお知らせなど	9

東日本支部からのお知らせ	10
西日本支部からのお知らせ	10
ICTM (国際伝統音楽学会) に関するお知らせ	10
会員異動	11
図書・資料等の受贈	12
新刊書籍	12
新発売視聴覚資料	14
編集後記	14
第9回定時社員総会議事録(抄)・添付書類	15

新会長挨拶

福岡正太

これから2年間会長を務めることになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

1年前、私たちは今日のような状況を全く予想していませんでした。新型コロナ感染症は、あつという間に世界に広がり、日常の多くの活動を見直さざるを得なくなりました。学校等で講義・授業をされている先生方は、4月からいきなりオンラインでの授業を強いられ、今ではそれが当たり前になっていることと思います。東洋音楽学会の大会も、大会実行委員会の努力により、中止や延期はせずにオンラインで開催することができました。私たちは、オンラインでの学会活動を続けるなか、その欠点と利点の両方を見いだしつつあります。

学会の会員数は、現在、五百数十名となり、減少の傾向が続いている。会費収入も減少し、これまで通りの活動を続けていくと、年間の赤字が100万円単位になることも予想されています。もちろん、学会の活動を縮小することは望ましくありませんが、その合理化・効率化を進める工夫が必要になってきます。その1つとして学会のコミュニケーションの電子化を検討しています。当面、会報・支部だより・例会案内の郵送を、できる限り、電子メールによる配信に切り替え

ることを目指しています。インターネットへの接続手段をもたない会員もいらっしゃることは理解しており、その対策はとりますが、可能な方はできる限りご協力いただくようお願いいたします。

先頃、日本学術会議が提出した会員候補6名が、「総合的、俯瞰的活動を確保する」という理由で任命が拒否されました。日本における科学のあり方を考えることを目的とし、政府への政策提言などを役割とする同会議を支えるのは、科学者同士の批判的な議論により物事を深く検討する精神だと思います。政策的な目標にてらして提言を取捨選択することは政治家の役割でしょうが、専門的な見地からなされる提言の内容を操作するために会員の選考に介入することは、あってはならないことです。

私たちの学会の活動を支えているのもピアレビューの精神です。権威主義に陥らないよう、その活動を広く社会に開きながら、専門と同じくする者同士の批判的な議論による「学問の自律性」をまもる必要があります。幸い、私たちの学会は、適切なルールを定めて、健全な議論をおこなう体制を整えてきたと私は考えています。こうした先達の努力に基づつつ、内外の急激な環境の変化のなかで、望ましい学会の姿を実現するために、会員の皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

第 71 回大会レポート

（2020 年 11 月 7 日～8 日 オンライン開催）

第 1 日（11 月 7 日）

◇シンポジウム

「社会とつながる音楽・芸能—その伝統と創造—」

パネリスト 神野知恵、木村佳代、福田裕美、糸場富美子
司会 植村幸生

4 人のパネリストが、各現場での実践の様子や直面する課題などを紹介した。神野氏は、主に農楽や伊勢大神楽の事例などを報告した。東日本大震災後、「誰のために何のために芸能を行うのか」という問い合わせが起きた中で実現した、日韓芸能交流公演「マツリクロッシング」、また、伊勢大神楽による「お祓い」を韓国の市場や日本の博物館などで再現し、参加者がお祓いを受ける村人になる体験をするワークショップは大変興味深かった。

木村氏は、ジャワ島のバニュマスの民俗儀礼「エベ」について報告し、エベが「音楽だけでなく、踊りや儀礼、自然への畏敬の念、祖先崇拜、いろいろな要素が詰まって」いる芸能であること、現在は刺激的な観光客向けの上演も行われることなどを報告した。社会における芸能の位置づけが限定的でなく、現在を生きる人の多様な表現を許容するものであることを感じさせた。

福田氏は、アートマネージメントの視点から報告を行った。文化保護法改正前は、現地の人による継承だけでなく、「舞踊家が現地の民俗芸能を見て（中略）『新しい芸術的表現を試みる』」ことが議論されていたこと、その議論の延長線上に、国立の民族（俗）舞踊団を設立しようという展開もあったことなどを報告し、関心を集めた。

糸場氏は、東京音楽大学民族音楽研究所主催で行われた「楽器が紡ぐ東アジア-現代と伝統」について報告した。中国・韓国の留学生も含む学生 11 名が、困難に出会いながらも各楽器の色を出し合い、一つの作品を創作していく様子を、映像を交えながら伝えた。大学院に新設された多文化音楽領域の授業の様子も報告した。

意見交換の時間では、かつて言われた「民俗芸能の芸術化」ではなく、現在は「再分派化」という語にするとしつくりくるような実践が各地で行われているのではないかという神野氏の発言を皮切りにさらに議論が進められた。「芸能が持っている自己復元的な力、持続性をもっと信じてもいいのでは」という司会者（植村氏）の発言も印象的だった。多様なフィールドの声を聞くことのできる刺激的なシンポジウムだった。

古謝麻耶子



◇公開演奏会

1. 交響譚詩—五重奏版— 伊福部 昭 作曲/小宮瑞代 編曲

2. 「日本とアジアの民謡 童謡」習作集

東京音楽大学大学院「多文化音楽研究領域」1 年次

3. kaze chiru 山岡秀和

本大会での公開演奏会は動画配信によって開催された。同じ時と場所を共有する演奏会とは異なって、いわゆるリアル感はないものの、各演奏者や楽器等や演奏されている音楽の構成などもよくわかった。このことは、今大会の大会プログラム 7 ページに明記された趣旨を理解するには、適切であったと言えよう。加藤富美子による口頭での丁寧な説明もあって、大学の教育のなかで、具体的にどうすることが、音楽学の取るべき舵の方向性なのかを、それぞれの演奏から考えることができた。伊福部昭作曲《交響譚詩》の小宮瑞代氏による編曲の初演、東京音楽大学大学院に設置された「多文化音楽研究領域」での授業における習作のオンラインによる紹介、そして、山岡秀和《kaze chiru》が 2015 年に作曲したジャワガムランとヴァイオリンおよびチェロの小品が、新入生オリエンテーションで演奏されることなど、現代の大学がもつ直近の課題と展開の可能性についての多くの示唆をいただいた。

永原恵三



第 2 日（11 月 8 日）



◆第 37 回田邊尚雄賞授賞式

授賞式は、Zoom によるオンラインで行なわれ、祝賀会は開催されなかつた。福岡まどか理事の司会、小西潤子選考委員の報告で、柳沢英輔氏の『ベトナムの大地にゴングが響く』と発表され、授賞理由が述べられた。本書はベトナム中部高原地域のゴング文化を、鋳造工程、調律師、音響分析などから包括的に研究したもので、柳沢氏からは、2006 年頃から一人でベトナム中部高原に入り、ゴング文化をもつ少数民族を現在まで調査したが、その間に多くの出会いに恵まれたことに感謝しておられた。祝賀会も兼ねて、伏木香織氏と福岡正太氏からスピーチがあった。伏木氏は柳沢氏が文字と音の世界との橋渡しをしたことに本書の意味があり、それが音文化に関わる調査者の使命である点を強調された。福岡氏は柳沢氏の調査する工房に案内されて、鋳造によるゴングの高い技術と経験を目の当たりにし、調律に立会うことでゴング音のよい音の認識が変化したことなどに触れ、その土地固有の音文化が存在することを考える機会が得られたと、柳沢氏への感謝を述べられた。

永原恵三

◆研究発表 1 - A (司会: 加納マリ)

江戸期吉原遊廓における音楽の実態

—音楽レパートリーと音楽文化事情を江戸文学にみる—

発表者: 青木慧

青木氏の発表は、江戸期吉原遊廓で演奏された音楽について、洒落本や隨筆の記述をもとに明らかにするものだった。洒落本をもとに、遊女と芸者のそれぞれの演奏種目と時代による変化を論じ、隨筆『北女闇起原』(式亭三馬編) をもとに、吉原におけるはやり唄を論じた。

質疑応答では、主に、史料批判に関する質問と、文学作品と演奏実践との関係性に関する質問が寄せられた。笠井津加佐氏からは、『北女闇起原』とそのもとになった諸本との校合について指摘があり、山田淳平氏からは、諸本の成立年代の開きによる音楽実態との乖離が指摘された。笠井純一氏からは、遊女と芸者による演奏種目の変化は、洒落本の文学的変容によるものではないかとの質問があった。文学作品における記述をどのように捉えるかという課題は残るが、関連する芝居や長唄、義太夫節、地歌等の史料と照合することで、吉原における音楽実態をより確実に明らかにできるだろう。

黒川真理恵

明治期の東京音楽学校とオペラ上演

—《オルフォイズ》を巡って—

発表者: 仲辻真帆

仲辻氏の発表は、1903 (明治 36) 年に東京音楽学校で上演されたオペラ《オルフォイズ》について、当時在学していた竹内今子氏旧蔵の楽譜等をもとに考察したものである。楽譜は、2019 年に東京藝術大学に寄贈されたもので、Peters 版のドイツ語・フランス語併記の歌詞に、日本語歌詞の書き込みがされており、初演時における翻訳の実態を知ることができる。

質疑応答では、大西由紀氏より、日本語歌詞の書き込みは楽譜の全編に付されているかという質問があり、仲辻氏からは、全編ではなく、竹内今子氏が参加した可能性のある合唱部分を中心に付されているとの回答があった。また、丸山彩氏からは、竹内今子氏旧蔵の楽譜とは別の楽譜で、日本語歌詞の書き込みのある楽譜について質問があり、仲辻氏からは、調査はしているが詳細な比較には至っていないとの回答があった。初演時の訳詞は、その後のオペラ上演の訳詞にも影響を与えたと考えられる。引き続き丹念な分析が望まれる。

黒川真理恵

植民地朝鮮における在朝日本人と文楽**—『京城日報』記事による 1920 年の公演を中心に—****発表者：金志善、金昭賢(非会員)**

金志善氏・金昭賢氏の発表は、1920 年の『京城日報』の記事をもとに、植民地朝鮮で行われた文楽公演について明らかにするものだった。質疑応答では、日本人専用の劇場・文化施設に関する質問があった。金志善氏からは、1920 年代は日本人に限られていたが、1930 年代以降は日本語話者の朝鮮人も観覧することができ、文化的交流があったことが推測されるとの回答があった。

また、時間外の質疑応答となつたが、廣井榮子氏から、『京城日報』における義太夫関連の記事に関する質問と、女義太夫および乙女文楽の外地巡業に関する興味深い質問があった。金志善氏からは、少なくとも 1920 年代は義太夫関連の記事が見られ、義太夫の師匠が朝鮮各地で活躍し、素淨瑠璃が盛んに行われていたとの回答があつた。乙女文楽については、1936 年に京城で公演が行われたとの回答があつた。廣井氏の指摘の通り、女義太夫や乙女文楽は、同時代の内地外地両方での研究の進展が期待される。

黒川真理恵

◇研究発表 1 - B (司会：福岡正太)**中部ジャワのスラカルタの国立芸術大学設立の草創期におけるダランの技術継承 —ASKI ダラン専攻科の事例から—****発表者：岸美咲**

本発表は 1964 年スラカルタに設立された国立の芸術大学 ASKI ダラン専攻科が、設立当初どのような教育を行なっていたのかを、当時の学生たちへのインタビュー等から明らかにしたものであった。分析から、草創期 ASKI では王宮の様式が伝承されるとともに、欧米留学経験のある強力な指導者グンドン・フマルダニによってパクリラン・パダットのような新しい様式の創出が試みられ、広い視野を持ったダランの育成が図られていたことが明らかにされた。

質疑ではこの時期にインドネシアが独立し官僚制が浸透したこととも重要な要素であったこと、インタビューをしたダランの半数が世襲ではなかったこと、特にグンドンの指導や思想には西洋舞台芸術の影響があったこと、授業における台本の作成が王宮のスタイルから自由になることを目指して行われていたことなどが示された。特に最後の論点については、口頭伝承と書承、伝統と創造性の問題が絡む興味深い論点が垣間見えた。

梶丸岳

大正・昭和の旅する神楽師たちの暮らし**—伊勢大神楽講社森本忠太夫社中の出納帳の分析研究—****発表者：神野知恵**

本発表は伊勢大神楽講社森本忠太夫社中が残していた大正

末から昭和初期にかけての出納帳を分析し、現代のメンバーへのインタビューによる情報を含めて現代と比較し時代の変化を跡付けた研究であった。分析の結果、社中がまわる地域や時期に一部変化が見られたこと、返礼にも時代を通じて変わらない点と変化がみられること、また当時の神楽師の名前や生活ぶりが明らかにされた。

質疑からは返礼を米で受け取った場合は決まつた米屋で換金すること、芸能の実態に触れるような史料も存在すること、また内輪では儉約的な集落が知られていることなどが示された。発表者によると大神樂の史料には神楽師でないと理解できない符丁などが使われており、大神樂の研究者と歴史家が協力しないと読み解けない部分が多く含まれているという。今後は全体の公刊とさらなる史料の発掘・分析を通じて日本の芸能史に新たな深みがもたらされることを期待したい。

梶丸岳

東アジアと東南アジアの“鳳首箜篌”的系譜**発表者：由比邦子**

本発表はインド由来とされる弓型ハープと、ネック先端に鳥の頭が付いた鳳首箜篌の伝播について史料から跡付けたものである。発表者によると鳳首には内向きと外向きがあり、前者は西域、後者は東南アジアを経由して中国に伝播し、主に西域由来のものが「鳳首箜篌」として天竺伎の楽器として使用されたのではないかと考えられるという。またこれに伴い林謙三が「共鳴胴が銅の鼓」と解釈した「銅鼓」についても一般に言われるような全体が銅で出来ている東南アジアの銅鼓と再解釈しうる可能性も示唆された。

質疑では会場からインドにも弓型ハープの図像が残っていること、伎は宮廷人によるバイアスがかかった上に演出も大きく加えられたものであるので、天竺伎で使用されたからと言って天竺のものとは言えないことなどが指摘された。全体的に大胆な仮説ではあるが、その割に東南アジア以外の史料の当たり方がかなり甘く、今後大幅に再検討が要されそうな発表であった。

梶丸岳

◇研究発表 2 - A (司会：野川美穂子)**木食朝意の評価の再検討****発表者：吉岡倫裕**

朝意は、真言声明の基幹的教則本となる『魚山薑芥集』を書写・再編した人物として知られる。声明実唱者である吉岡氏は、I 先行研究の評価をふまえて II 朝意の伝承に「思想上の理論」と「実唱上の理論」があったと推定し、現行南山進流における呂曲と律曲の音位関係、曲中での音移りの原則(完全 4 度の有無)が朝意の『声明師秘事』の言説に類似することから、当時より両理論が既に乖離していた可能性を指摘し

た。実唱に関する質疑（澤田篤子氏）に対し、1.変音曲は呂⇒律と同様に長 2 度上行、2.呂曲内・律曲内であればどの曲も音移りの幅に差異はない（散華中段・後段は例外）、3.呂曲にはかつて幅広い音の跳躍があった（中川善教・鈴木智辯ら）が、それは楽譜（思想上の理論）に則った唱法例ではないか、と応答した。III『四座講式』、IV江戸期以降の『魚山薑芥集』刊本 7 種の比較では、新義派が朝意本を踏襲するいっぽう古義派では改編が見られる点、V朝意本『魚山薑芥集』の比較（7 伝本中 3 本）では、晩年の写本に改変の足跡が見られる点から、朝意の改革者としての位置づけが示された。これらの実証には V の精査が肝要であり、今後の調査の進展を待ちたい。

近藤静乃

『顧謨録』「学曲六戒」は『歌道要法』に影響を与えたか

発表者：高瀬澄子

近年、本土における儒学や琴の受容についての研究が進んでいるが、琉球においてそれらがどのように受容され、展開したのかは未だ不明な点が多く、高瀬氏はそこに関心を寄せているという。本研究は、中国古典戯曲に関する著作『顧謨録』所収の「学曲六戒」と、琉球の音楽論を代表する『歌道要法』（歌三線：安富祖正元著）との影響関係に着目し、王燿華による先行研究で言及されなかった『歌道要法』の異本（長い本文）との比較を通して、両者の影響関係を再検証したものである。異本に琴の思想の要素が見られることは、ロビン・トンプソン「『歌道要法』の美学」『山内盛彬著作集』第 1 卷月報、沖縄タイムス社[1993]）の指摘が先行するが、ここには引用された漢籍についての言及がない。本研究での進展はその出典を明らかにした点にあり、高瀬氏の堅実で丹念な読解によってテキストの異同が明示され、「学曲六戒」から「直接的な影響関係があった」とする王燿華とは異なる見解に至った。

近藤静乃

◇研究発表 2 - B (司会：植村幸生)

地方様式が意味するもの

—カザフ伝統音楽にみる地域性と間民族性—

発表者：東田範子

本発表はカザフの伝統音楽における「地方様式」の語りの変遷を文献研究や音楽家のインタビューより明らかにした。カザフスタンがソ連の支配下だった時代、カザフの伝統音楽は地方の多様性よりも、「統一的なカザフ民族の音楽」の特徴が重要視されてきた。しかし 1960 年代以降、地方様式の研究が盛んになり、東西二つの地方様式とそれらがさらに複数に分けられることが語られるようになった。地方様式の差異は器楽のドンブラであれば演奏法、声楽であれば声質の違いなどがあげられるが、器楽は高等教育の場で楽譜を用いた教

育や合奏が盛んに行われ、様々な地域のレパートリーを演奏するようになったのに対し、声楽は歌い回しなどの習得が困難のため、高等教育の場でもある特定の地方様式のみを習得するというような実践の違いがあらわれた。また地方様式の差異は、音楽的特徴を超えて土族のアイデンティティや近隣民族とのつながりからも語られる現状が示された。質疑応答では、地域様式が成立していく過程について、様々な地域の事例が述べられ意見が交わされた。

鈴木良枝

宗教的自文化表現の上演

—アレヴィーのセマーとその実践の場に注目して—

発表者：鈴木麻菜美

本発表は、オーストリアの移民コミュニティのアレヴィーが社会活動の中で実践するセマーに注目し、セマーの意義と役割の現状を明らかにした。アレヴィーは儀礼の中で、舞踊的な動作にみえるセマーを重要視している。セマーは「回る」ことを意味し、舞踊ではなく宗教的な身体動作として捉えられてきた。しかし現代、セマーは儀礼の場を超えて実践されることが増え、移民として暮らすアレヴィーでは、儀礼で行われるセマーの参加が減る一方、舞台的なセマーへの参加が増えた。舞台的なセマーへの参加は、アレヴィーとしてのアイデンティティの表出となる一方、セマーを「舞踊」として捉える者も現れ、宗教的な身体動作としてのセマーという意識が希薄になっている状況が示された。またその打開策として子供たちに儀礼の手順の一部としてセマーを実践させ、宗教的な身体的動作としてのセマーの意識を定着させようとする現状が語られた。

鈴木良枝

◇研究発表 3 - A (司会：奥山けい子)

《松浦》以降の世阿弥自筆譜における旋律記号の早歌からの撰取

発表者：丹羽幸江

本発表は、現存する世阿弥自筆譜 9 曲のうち、後期に成立した《松浦》《阿古屋松》《布留》について、早歌譜の旋律記号を撰取した可能性を検討するものであった。具体的には、自筆譜の「二点のゴマ」と「上・下」に関する発表であった。前者については、早歌譜の「ユリ胡麻」が徵の音位で歌われ、二点のゴマが多く中音（徵と記されることがあった）で謡われたことから、ユリ胡麻が自筆譜へ移入されたと推論された。後者については、真言宗の講式・平家との比較を行いつつ、早歌の用法が自筆譜と近いという仮説が提示された。さらに、早歌譜に見る五声を世阿弥が自筆譜に使わなかつた理由を、謡の構造上から解説する試みがなされた。そして、「世阿弥自筆譜は音楽構造への深い洞察のもと記された精緻な楽譜」という結論が示された。

発表後、自筆譜を《松浦》以前と以降に分ける意味を問う

ものや、西大寺・醍醐寺の講式資料の調査の必要性を指摘するものなど、Zoom 参加者と発表者との間で非常に有意義かつ活発な質疑応答が行われた。

三浦裕子

〔共同発表〕大嘗祭の音楽

発表者代表：遠藤徹

発表者：比嘉 舞、山田淳平

遠藤徹氏を代表とする三名による共同発表「大嘗祭の音楽」を拝聴しての報告をする。冒頭、遠藤氏より、本発表の目的は、令和の大嘗祭が記憶に新しいうちに音楽史・芸能史から見た大嘗祭を巡る諸問題を浮き上がらせることであると述べられ、各発表が進められた。以下、3 名の発表について簡略に述べたい。

比嘉舞氏「令和の大嘗祭における音楽」

令和の大嘗祭及びその関連行事で奏された音楽について詳細な報告があった。令和の大嘗祭では、饗宴の儀では舞楽（太平樂）・管絃が、大嘗宮の儀では稻春（いねつく）歌・国柄古歌・風俗歌・神楽歌が、大嘗の儀では久米舞・風俗歌舞・大歌・五節舞が奏され、ほぼ平成度の踏襲であったとする。唯一の違いとして、饗宴の儀における舞楽において、平成度には太平樂と共に奏された万歳樂が今回ではなく、将来的にも儀式の規模に応じた変更がある可能性を指摘する。令和度の新作曲には、悠基・主基地方の稻春（いねつく）歌・風俗歌・風俗歌舞があり、稻春（いねつく）歌には「稻」「地名（斎田がある場所）」「春（つく）」の3つの詞を用いること、風俗歌には御代の栄を寿ぐ内容を入れるという決まりがあること、そして風俗歌舞の歌詞には悠基・主基地方として選ばれた栃木県と京都府の名勝が取り入れられていたという指摘があり、興味深かった。

山田淳平氏「近世・近代における大嘗祭芸能の再興」

近世・近代における大嘗祭芸能の再興過程を通じて、再興を巡る社会構造や認識について解明しようとし、論点を明確に捉え、史料を引用しながら明らかにする報告であった。近世における大嘗祭の再興には信用性の高い古譜が重視されたことから、三方樂人が再興に必要な情報を諸方面より収集したため、社会に埋もれていた知識・情報が大嘗祭芸能の再興に活用されたとする。一方、近代においては、芸能に関わる地域側が演奏者の身分の上昇や地域の顕彰などの利を得るために、大嘗祭芸能を利用した皇室への接近が行われたとする。その上で、「大嘗祭芸能をめぐる動向から、天皇・朝廷（皇室）と社会との関係の変化の一端が見て取れる」と結論付けている。

遠藤徹氏「平安時代の悠基・主基の風俗歌舞」

大嘗祭の音楽を最も特徴づけている悠基・主基の風俗歌舞が定着するまでの変遷について、近年の新出史料をも引用しながら詳細な報告があった。源博雅撰『新撰樂譜』所収の「承和悠基作物」「承和主基作物」という風俗歌舞の楽譜（仁明天

皇の大嘗祭に使用）に注目し、両楽譜が風俗歌舞の新作の先例となり、慣例化していく可能性を指摘する。その上で、両楽譜に見られる曲調及び楽章は「双調、序、破」であったが、村上朝以降「参音声、破、急、退出音声」という楽章が定型化し、朱雀朝には曲調が盤渉調に変わり、平安後期には様式は唐樂（時には高麗樂）形式で作られるようになったことなど、変遷の詳細を明らかにする。また、『新撰樂譜』所収の唐樂曲との比較を行い、両楽譜が五声による構成であることや唐樂に特有の由（ゆり）（装飾音）が見られないことから、両楽譜は唐樂様式ではなく、当時の國風（くにぶり）様式を取り入れて作曲されたとする。

この他、風俗歌舞が催馬樂化されたのは 10 世紀までであることや、大嘗祭に使用された鶴尾琴（とびのおこと）への言及などもあり、興味をそそられる盛りたくさんの報告であった。

豊永聰美

◇研究発表 3 - B

〔共同発表〕宗教共同体の音楽—近代日本の仏教界を例に—

発表者代表：マット・ギラン

発表者：遠藤美奈、福本康之（非会員）

ディスカッサント：大内典

本発表のテーマは近代日本の仏教音楽に見られる「越境」であった。福本氏は近代日本仏教における西洋音楽受容について、明治期には教義に合わないなどの批判があった一方で、非常に周辺的であることから黙認されてきたことを明らかにした。遠藤氏は戦前のハワイ日系移民に注目し、讃仏歌がオルガンや英語を用いたことで日系 2 世や非日系人を取り込む役割を果たしたことを論じた。ギラン氏は、中里介山が尺八奏者の高橋空山の影響を受け、小説「大菩薩峠」で普化宗の宗教観を表現したが、普化宗復興を目指す組織「隣人会」では、中里らの解釈に対する批判があったことを明らかにした。ディスカッサントの大内氏は、仏教の教義と西洋音楽の絶妙な距離感が、讃仏歌の生き残りの鍵になったと述べ、普化宗については宗教性と尺八の芸術的展開の間に葛藤が見られたと指摘した。質疑応答は行われなかったが、東アジア諸国の寺院や、ハワイ以外の日系仏教でも音楽の越境が見られるのか、非西欧の伝統音楽を用いたキリスト教儀礼でも似たような批判の過程があるのか、聞いてみたかった。

神野知恵

◇研究発表 4 - A（司会：奥中康人）

リディアン・クロマティック・コンセプトと武満徹についての研究

発表者：宮川涉

宮川涉氏の発表は、ジャズ史上極めて重要な理論と目される「リディアン・クロマティック・コンセプト」（以下 LCC）が西洋文化圏外の音楽と親近性を持ち、20 世紀後半の音楽創

作に有効な理論となり得たことを、LCC からの影響と雅楽の要素が看取される武満徹『地平線のドーリア』に焦点を当てて実証しようとするものである。発表の映像は話の概要が文章で示されて理解しやすく、質疑では主に武満と LCC との関わりや理解をめぐって議論が行われた。筆者は LCC の生みの親ラッセルが師事した作曲家ヴォルペが LCC へと及ぼした間接的影響を指摘したい。ヴォルペは 1930 年代半ばに「新しいパレスチナ音楽」の創作を目的にかの地に滞在して中近東音楽の旋律に無調のテクスチュアを付した声楽曲を作曲したが、無理解に直面してアメリカへと移住した。LCC を介したヴォルペ→ラッセル→武満という影響の回路が成立しうるとすれば、20 世紀世界音楽史の興味深い事象となる。宮川氏のさらなる研究を期待したい。

高久暁

音楽研究と遊び論の接合に向けて

発表者：土田まどか

バリ島の「遊び」は人を思索へと誘う力があるようだ。かつて文化人類学者クリフォード・ギアツはかの地の闘鶏に気づく社会的・文化的象徴性を「深層の遊戯」と喝破したが、土田まどか氏はろう者たちの音楽参加のフィールドワークから触発されて「遊びとしての音楽」「音楽の楽しさ」の原理的・美学的考察を志した。遊び論の古典（カイヨワ、ホイジンガ）から美学者西村清和の遊び論を経てアントワース・エニヨンのアマチュア音楽家の音楽社会学的考察やゲーム研究（ユール、シカール）での知見まで広い分野の見解が消化され、若干の課題を残したとはいえ、ひとまず納得のゆく結論が得られたと感じられた。2 日目午後のセッション最後の発表だったため、十分に質疑や議論を尽くせないまま時間切れになってしまったのが惜しまれる。土田氏の大会運営への尽力は目覚ましいものがあったが、プログラム冊子やスライドの誤字はやはり避けたいものである。今後の考察のさらなる深化と展開を期待したい。

高久暁

◇研究発表 4 - B (司会：早稲田みな子)

1940 年代のラジオ放送にみる近代琵琶界の動向

—戦後の琵琶界再興への過程に注目して—

発表者：曾村みづき

本発表は、第二次世界大戦以降にスポットを当て、近代琵琶の放送記録からその再興の経緯を紐解くものであった。琵琶の放送の再開を契機に、近代琵琶界が全日本琵琶協会、さらに日本琵琶協会設立へと流派を超えて団結していく背後に、田邊尚雄の働きかけがあったことは、研究者が演奏家と社会をつなぐ役割を果たした一例として理解できた。フロアからは、この時期の放送において「検閲」というフィルターは大きな影響があったため、今後、具体的な事象に迫

ることで詳細な動向が明らかになるとの期待が寄せられた。また、戦時下から終戦に向かって、放送に求められるものも「戦意高揚」から「生活の明朗化」へと変化し、同時に琵琶の演目も戦争物・時曲物から古典的なものに推移したが、この「明朗化」は、当時の映画や演劇での展開と照らし合わせると、「戦意高揚」と対照的な概念というよりは、ある種のプロパガンダ的な高揚感として相通じるものがあったのではないか、との意見があった。

前原恵美

放送番組におけるインド音楽の受容とイメージ形成

—NHK 番組アーカイブス学術利用トライアルから—

発表者：小日向英俊

発表者は、インド音楽が公的受容から私的受容へ移行する際の準公的受容セクターとして放送制度を捉える。インド音楽を扱う NHK 放送番組を分析した結果、圧倒的に北インドの音楽が多かったとの具体的な報告があり、質疑応答もこの「偏り」に集中した。

放送番組で北インド音楽を多く取り上げてきた理由として、発表者は研究者が果たした役割や影響を指摘する。研究者からの情報を放送メディアが受け取り、その人脈を活かして取材し、番組を制作する。こうした初期の結びつきがそのまま番組制作において踏襲されたため、放送が必ずしもインド音楽を全体のバランスを取って啓蒙する制度になっていないのではないかという。ほかに、インド音楽（ないし芸能）の導入と受容には、著名な演奏家や公演・文化イベント招聘団体、日本での実技教授者等も影響を与えたとの発言が交わされた。さらに、この偏りが音楽教育の現場でも大きな課題であるとの指摘もあった。音楽に限らず異文化を導入する際に、「全体像を認識しつつ、ここで紹介するもののスタンスを明示」し、偏りを超えた受容を促すことの重要性を共有した発表であった。

前原恵美

通常理事会・総会議決事項のお知らせ

2020 年 10 月 4 日（日）に web 会議システム Zoom を用いて第 17 回通常理事会が、また 2020 年 11 月 7 日（土）に web 会議システム Zoom を用いて第 9 回定時社員総会が開催されました。以下にこれらの会議における議決事項のうち、特記すべきものをお知らせします。なお、定時社員総会の議決の詳細は、後掲の第 9 回定時社員総会議事録（抄）ならびに添付書類をご参照ください。

1) 新入会員について

理事会において、2020 年 4 月以降に仮承認された正会員 4 名と学生会員 1 名が、会員として正式に承認されました。

2) 参事委嘱について

村岡南氏に本部・総務の参事を委嘱することが承認されました。

3) 令和元年度公益目的支出計画実施報告書について

社団法人から一般社団法人への移行が完了するまで提出が義務づけられている公益目的支出計画実施報告書について、令和元年度の報告書の内容が承認されました。

4) 音楽文献目録委員会から『音楽文献目録』の冊子体廃止とウェブによる情報公開の開始を行いたい旨の提案が文書で届き、理事会として音楽文献目録委員会の活動方針を支持する旨を確認しました。



臨時理事会議決事項のお知らせ

(役員の役割分担含む)

去る 11 月 8 日（日）に web 会議システム Zoom にて臨時理事会が行われ、理事の役割分担、支部委員、各種委員、参与、参事が以下のように決まりました。また正会員 2 名の入会が承認されました。

1) 理事

[会長] 福岡正太

[副会長] 遠藤徹

[東日本支部長] 尾高暁子

[西日本支部長] 竹内有一

[沖縄支部長] 久万田晋

[常務理事] 植村幸生、小日向英俊、田中多佳子、

前原(笠原)恵美(兼経理)、増野(城島)亜子

[総務] 遠藤徹、小日向英俊(情報委員会担当)、田中多佳子(田邊賞担当・兼西日本支部担当)、福岡正太(兼西日本支部担当)、増野(城島)亜子(兼広報)

[経理] 植村幸生、前原(笠原)恵美

[広報] 澤田篤子、増野(城島)亜子(兼総務)

[機関誌] 奥中康人、加納マリ、藤田隆則(兼西日本支部担当)

[東日本支部担当] 奥山けい子

[西日本支部担当] 田中多佳子(兼総務)、福岡正太(兼総務)、藤田隆則(兼機関誌)

2) 支部委員

[東日本] 井上貴子、海野るみ、金志善、黒川真理恵、越懸澤麻衣、佐藤文香、佐竹悦子、田中美加、田辺沙保里、デュラン, アイソル、東田範子

[西日本] 明木茂夫、岡田恵美、梶丸岳、神野知恵、菌田郁、柳沢英輔

[沖縄] 遠藤美奈、古謝麻耶子、長嶺亮子

3) 各種委員

[機関誌編集委員会] 明木茂夫、奥中康人(委員長)、加納マリ、濱崎友絵、藤田隆則

[会報編集委員会] 今泉佳奈、澤田篤子(委員長)、柴森優花、土田まどか、増野(城島)亜子、山下正美、横山洸、吉岡倫裕

[情報委員会] 遠藤美奈、太田暁子、岡田恵美、小日向英俊(委員長)、佐竹悦子

[国際伝統音楽学会 (ICTM)] 早稻田みな子

[藝術学関連学会連合] 福岡正太

4) 参与

酒井諒

5) 参事

[総務] 青木慧、鈴木麻菜美(田邊賞担当)、中川優子、根本千聰、村岡南、宮武苑子

[広報] 今泉佳奈、柴森優花、土田まどか、横山洸、吉岡倫裕

[機関誌] 石井紗和子

[情報委員会] 渕上ラファエル広志

[東日本支部] 岩崎愛、小尾淳、倉脇雅子、齊藤紀子、

澤田聖也、曾村みづき、武田有里、鄭曉麗、
増田久未

[西日本支部] 上畑史、古澤瑞希、細野桜子、吉岡倫裕
[沖縄支部] 小川恵祐

会員の受賞

◇徳丸吉彦さんが第 74 回毎日出版文化賞を受賞

本学会会員の徳丸吉彦さんが、著書『ものがたり日本音楽史』（岩波書店、2019）の執筆に対して、第 74 回毎日出版文化賞（特別協力＝大日本印刷株式会社）の特別賞を受賞されました。

◇ジェラルド・グローマーさんが日米友好基金日本文学翻訳賞を受賞

本学会会員のジェラルド・グローマーさんが、著書『Portraits of Edo and Early Modern Japan : The Shogun's Capital in Zuihitsu Writings, 1657-1855』（「江戸と近世日本のポートレート—隨筆に見る將軍の都」）に対して、日米友好基金日本文学翻訳賞（通称 ドナルド・キーン翻訳賞）を受賞されました。

最新メールアドレス登録などのお願い

本学会では、事務効率化と迅速な情報伝達のための基盤整備を昨年度より進めております。そのため、会員のみなさまの正しいメールアドレスの登録をお願いしてまいりました。

第 3 次として、引きつづきグーグルフォームによるメールアドレスの登録および、会報などの郵送廃止申し込みを 2021 年 3 月 31 日まで継続いたします。

まだ登録がお済みでない場合、学会ウェブサイト上部の「会員のみなさまへ」内「メールアドレス登録および配信（郵送停止）申込フォーム」セクションにある「申込フォームはこちら」から、登録およびお申込をお願いいたします。

なお、スマホやタブレット端末を利用する場合、QR コードからも登録していただけます。



第 38 回田邊尚雄賞アンケートのお願い

第 38 回田邊尚雄賞選考委員会では、同賞の選考にあたり、

推薦情報を募集しております。アンケート締切まであとわずかとなりました。会員の業績を顕彰する貴重な機会ですので、皆さまからの積極的なアンケート回答を切にお待ち申し上げております。自薦のほか他薦も歓迎いたします。

選考対象：2020 年 1 月 1 日～12 月 31 日の発行物

アンケート締切：2021 年 2 月 5 日（金）正午

記入事項：書式は問いませんが、次の事項をご記入下さい。
著者名、書名、発行年月日、発行所名。なお、論文の場合は、さらに掲載誌名、巻次、編集者名、論文頁数もお記しください。推薦理由を簡潔にお書き添えいただいて結構です。

送付先：東洋音楽学会 第 38 回田邊尚雄賞選考委員会

（郵送）〒110-0005 東京都台東区上野 3-6-3 三春ビル 307 号
(FAX) 03-3832-5152

（電子メール） LEN03210@nifty.com

(*諸事情により、ご連絡の受け取り確認などが遅れる場合
もあります。)

選考委員：小西潤子（委員長）、伏木香織、大内典、塚原康子、
三浦裕子

会費納入のお願いと会費割引制度のお知らせなど

1. 会費納入のお願い

2020 年 9 月から新しい年度（2020 年度）が始まりました。会費未納の方は、金額をお確かめの上お払込くださいますよう、お願い申し上げます。振込用紙を紛失された場合は、下記学会口座宛にお振込ください。

正会員：8000 円

学生会員（大学院生を除く）、および割引申請者：6000 円

○郵便局からの払込

ゆうちょ銀行 [口座番号] 00160-6-55723 [加入者名] 一般社団法人東洋音楽学会

○他金融機関からの振込

ゆうちょ銀行 [支店名] ○一九（ゼロイチキュウ）店 (019)
[当座] 0055723

○オンライン決済サービスによる納入

ペイパル（PayPal）によるオンライン決済で会費が納入できます。学会ウェブサイトのトップページ (<http://tog.a.la9.jp/>) の「入会方法はこちら」をクリックし、「入会方法」のセクシ

ヨンをご覧頂くと納入ボタンがあります。オンライン決済にはペイパルへのログインが必要です。ペイパル・アカウントをお持ちでない方は、アカウントを開設すると送金できます(アカウント開設費無料)。なお、オンライン決済には手数料が発生するため、納入金額は以下のようになります。

正会員：8350円

学生会員(大学院生を除く)、および寄附申請者：6280円

2. 会費割引制度のお知らせ

本学会には、夫婦・親子寄附、大学院生(博士課程・修士課程)・研究生寄附の制度があります。それぞれ条件や申込方法が異なります。学会のホームページ(<http://tog.a.la9.jp/about.html#7>)でご確認の上、お申し込みください。なお、大学院生の割引制度を受けるためには「大学院生会費減額措置願い」と学生証のコピーを、また研究生の割引制度を受けるためには、「研究生会費減額措置願い」と学生証のコピー、履歴書が必要です。次年度以降も継続して減額措置を希望する場合は、毎年、前年度末すなわち8月31日までに、「減額措置願い」を提出する必要があります。

3. 会費の滞納者へのご注意

滞納がありますと、会員の権利(研究会・大会での発表、学会の発行物の受取)が行使できないことがありますのでご注意ください。

4. 卒論・修論の発表者へのご注意

発表を機に入会された会員にも、新年度の会費納入義務が発生いたします。退会するためには退会届が必要です。その旨ご了解のうえ、会費の納入にご協力ください。

東日本支部からのお知らせ

◇定例研究会発表募集(7月例会)

2021年7月3日(土)に開催される東日本支部定例研究会での研究発表を募集しています。

発表を希望される方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、発表希望月、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail)を明記の上、4月30日までに、東日本支部事務局あてお申し込みください。なお、発表希望の提出後1週間を経ても東日本支部事務局から連絡がない場合には、メール事故等の可能性がありますので、お手数ですが、再度ご連絡ください。

開催方法(オンライン/対面)は未定です。

◇「会員の声」投稿募集

東日本支部発行『東日本支部だより』には、会員の皆様からの情報を掲載する「会員の声」欄を設けています。研究会、講演会、展示会など、会員の活動に関連する情報がありましたら、東日本支部事務局あて、お知らせください。投稿方法などの詳細は、『東日本支部だより』をご覧ください。

[東日本支部事務局] E-mail:tog.higashi@gmail.com

西日本支部からのお知らせ

別記のように支部役員が交代し、事務局の場所は京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター内に移りました。よろしくお願ひいたします。

西日本支部定例研究会での研究発表を希望される方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、E-mail)を明記の上、下記、事務局までお申し込みください。

[西日本支部事務局]

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6

京都芸大伝音センター 竹内有一研究室 気付

E-mail:ytake2395@gmail.com

TEL: 075-334-2395(研究室直通)、070-5019-1183(竹内携帯)

ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ

1. 第46回 ICTM世界大会について

新型コロナウィルスの世界的流行を受け、会期は延期されました。また当初掲げられていた学会テーマの7つのうち1つが、コロナ禍を反映して変更されています。

日時: 2022年7月21日～27日(当初予定されていた2021年7月から延期されました)

開催地: Institute of Ethnomusicology - Center for Studies in Music and Dance、および NOVA School of Social Sciences and Humanities, New University of Lisbon (NOVA-FCSH)(ポルトガル、リスボン)

テーマ(1のみ当初のテーマから変更)

- Engaging Global Health and Climate Crises through Music and Dance
(Ecomusicologies and Ecochoreologies: Sound, Movement, Environmentから変更)
- Dance, Music, and Human Rights: Coexistence and

- 1. Inequalities in the Contemporary World
 - 2. Approaches to archival practices
 - 3. Connected Communities: Ocean Trajectories and Land Routes
 - 4. Music and Dance Cosmopolitanisms
 - 5. Music and Dance Industries
 - 6. New Research on Other Topics
- 各テーマや発表募集についての詳細は、ICTM ホームページ (<http://www.ictmusic.org/>) の “Events - Next World Conference (Postponed to July 2022)” のリンクからご覧になれます (<http://ictmusic.org/ictm2022>)。発表申し込みは同ページ内のリンクより行うことができます (<https://www.ictmusic.org/ictm2022/submit>)。

発表申込の締切：2021年9月15日

発表可否の通知：2021年12月

2. ICTM 日本国内委員会の新会長について

2020年9月より東洋音楽学会の新会長に、福岡正太氏が就任されました。東洋音楽学会は ICTM 日本国内委員会を兼ねているため、当学会の会長が同委員会の会長を兼任することになります。新会長としての福岡氏のご紹介は、2021年4月発行予定の ICTM 会報 (Bulletin of the ICTM) に掲載予定です。

3. Yearbook for Traditional Music バックナンバーのオンライン・アクセスについて

ICTM の機関誌、Yearbook for Traditional Music は2019年 51 号よりケンブリッジ大学出版から出版されるようになりました。それに伴い ICTM 会員の特典として、同誌のバックナンバー（1981 年～現在）、および同誌の前身である Yearbook of the International Folk Music Council (1969-1980) と the Journal of the International Folk Music Council (1949-1968) のバックナンバーがオンライン上で無料閲覧できるようになりました。

閲覧方法は、以下の通りです。

- ①ICTM のウェブサイト (<http://ictmusic.org/>) を開き、ユーザー名とパスワードを入力してログインする。
- ②左側に出てくる「Member Service」のメニューから「Your Account」を選びクリックする。
- ③「Benefits for members in good standing」の一覧から「Access the Yearbook for Traditional Music at Cambridge Core」を選んでクリックする。
- ④Yearbook for Traditional Music のトップページが開き、検索ウィンドウが現れる。

- ⑤検索ウィンドウでキーワードや著者名で論文検索ができる他、その下にあるメニューから、最新号は「latest issue」、他のバックナンバーは「all issues」をクリックして閲覧が可能です。
- ⑥記事の一覧ができたら読みたい論文にチェックを入れ、左側のメニューの「Actions for selected content」から PDF ダウンロード、Kindle や Google Drive への転送などが可能です。会員の特典として、ぜひご利用ください。

会員異動

個人情報のため削除

個人情報のため削除

個人情報のため削除

図書・資料等の受贈

(2020年9月～12月、到着順)

- 『日本音楽学会会報』第110号 日本音楽学会
『雅楽だより』第63号 雅楽協議会
『浪花節の生成と展開——語り芸の動態史にむけて』
　　真鍋昌賢編著 セリカ書房
『楽道』9,10,11,12月号 (公財)正派邦楽会
Piercing the Structure of Tradition: Flute Performance, Continuity, and Freedom in the Music of Noh Drama
　　Mariko Anno Cornell University Press
『音楽学』第66巻1号 日本音楽学会
『阪大音楽学報』第16・17号(合併号) 大阪大学音楽学研究室
『能楽囃子太鼓方観世流に見る伝授と受容の諸相
——「入門者摘録」(全二冊)研究 第一巻(翻刻編)』
　　三浦裕子 武蔵野大学能楽資料センター
『能・狂言の音声ガイド・字幕に関する研究序説——上質の
コンテンツ制作のための方法論の確立と情報の蓄積・共有化
に向けた基盤整備への試み』 武蔵野大学能楽資料センター
『民俗芸能研究』第69号 民俗芸能学会
『詩人の恋——アラブの歌姫ウンム・クルスーム物語』
　　セリム・ナスィーブ スタイルノート
『御屋舗番組控 四——影印・翻刻・注解』(演芸資料選書12)
　　三世杵屋勘五郎筆録、長唄資料研究会翻刻・注解、
　　国立劇場調査養成部編集 日本芸術文化振興会

新刊書籍

(ゴシック体の項目は賛助会員による刊行物)、価格 (税込)

『アフリカノオト：太鼓とカリンバの旅』

コイケ龍一、河出書房新社、1,430円

『アニミズム時代』

岩田慶治(著)、松本博之(解説)、法藏館、1,320円

『阿波の遊行：檜瑛司民俗芸能写真集』 檜瑛司ほか(写真)、

唐崎千尋(文)、久保田麻琴(監修)、河出書房新社、3,300円

『イラストで知る 発声ビジュアルガイド』

セオドア・ダイモン(著)、

竹田数章(監訳)、篠原玲子(訳)、音楽之友社、2,750円

『歌と映像で読み解くブラック・ライヴズ・マター』

藤田正、シンコーミュージックエンタテイメント、2,200円

『映画人が語る 日本映画史の舞台裏：配給興行編』

谷川建司(編)、森話社、3,960円

『エチオピア高原の吟遊詩人：うたに生きる者たち』

川瀬慈、音楽之友社、3,300円

『越境する〈発火点〉：インドネシア・ミュージシャンの表現世界 (ブックレット『アジアを学ぼう』)』

金悠進、風響社、880円

『江戸庶民のまじない集覽：創意工夫による生き方の智恵』

長友千代治、勉誠出版、6,600円

『江戸の黙阿弥：善人を描く』 埋忠美沙、春風社、4,950円

『応用がきく！上田晴子のライヴ・レッスン：

弾いて、聴いて、楽しく学ぶ室内楽』

上田晴子・西尾洋(著)、音楽之友社、3,190円

『オスマン帝国英傑列伝：600年の歴史を支えたスルタン、芸術家、そして女性たち』 小笠原弘幸、幻冬舎、1,056円

『オリヴィエ・メシアンの教室：

作曲家は何を教え、弟子たちは何を学んだのか』

ジャン・ボワヴァン(著)、小鍛治邦隆(監)、平野貴俊(訳)、

アルテスピブリッシング、8,800円

『音楽、なんてストレンジな！：

音楽を通して垣間見る文化の前衛、または裏側』

アトリエサード(編)、アトリエサード、1,528円

『音楽の危機：《第九》が歌えなくなった日』

岡田暁生、中央公論新社、902円

『音楽のよろこび』 吉田秀和、河出書房新社、2,640円

『音楽を感じろ：デジタル時代に殺されていく音楽を救う

ニール・ヤングの闘い。』

ニール・ヤング、フィル・ベイカー(著)、鈴木美朋(訳)、

ストランド・ブックス、3,300円

『歌舞伎を読む 雅の巻：宫廷の光と影』

大矢芳弘、森話社、4,180円

『カルチャー・ミックス3：「文化交換」の美学的展開編

(同志社大学人文科学研究所研究叢書)』

清瀬みさを、晃洋書房、3,190円

『観劇ノート集成 第一巻：昭和二十七・八・九年』

渡辺保、インプレスR&D POD出版サービス、2,970円

『近代日本の音楽百年：第二巻 デモクラシイの音色』

細川周平、岩波書店、14,300円

『近代日本の音楽百年：第三巻 レコード歌謡の誕生』

細川周平、岩波書店、14,300円

『交響録：N響で出会った名指揮者たち』

茂木大輔、音楽之友社、2,200円

『鷺流狂言詞章保教本を起点とした 狂言詞章の日本語学的研究』 米田達郎、武蔵野書院、9,350円

『児童が最後まで聴きたくなる！鑑賞授業の事例集』

粟飯原喜男、教育芸術社、1,100円

『新彰義隊戦史』 大藏八郎(編)、勉誠出版、7,700円

『人生100年時代の多世代共生：「学び」によるコミュニティの設計と実装 (シリーズ超高齢社会のデザイン)』

牧野篤(編)、東京大学出版会、5,940円

『静寂なほど人生は美しい：弱視の音楽療法士が伝える

『聞こえない音』の世界』 工藤咲良、Clover出版、1,650円

『生成Deep Learning：絵を描き、物語や音楽を作り、

ゲームをプレイする』 David Foster(著)、

松田晃一・小沼千絵(訳)、オライリー・ジャパン、4,180円

『戦争の歌がきこえる』 佐藤由美子、柏書房、1,870円

『それでも音楽はまちを救う』

八木良太、イースト・プレス、946円

『村落エコツーリズムをつくる人びと：パリの観光開発と

生活をめぐる民族誌』 岩原紘伊、風響社、5,500円

『旅ごころはリュートに乗って：歌がみちびく中世巡礼』

星野博美、平凡社、2,090円

『中世の村への旅：柳田國男『高野山文書研究』『三倉沿革』

をめぐって』 小島櫻禮、アーツアンドクラフト、3,520円

『ディス・イズ・アメリカ：「トランプ時代」のポップミュージック』 高橋芳朗(著)、TBSラジオ(編)、スマート出版、1,650円

『伝記 オリヴィエ・メシアン：音楽に生きた信仰者(上・下)』

ピーター・ヒル、ナイジェル・シメオネ(著)、

藤田茂(訳)、音楽之友社、各6,600円

『伝統芸能の革命児たち』 九龍ジョー、文藝春秋、1,650円

『東京影絵』 川村 亘平斎・宮本 武典(著)、クレヴィス、2,420円

『唐宋音楽文化論：詩文が織り成す音の世界』

中純子、知泉書館、6,600円

『都道府県別ご当地ソング大百科：県民性でひもとくご当地

ソングの秘密』 合田道人、全音楽譜出版社、1,760円

『浪花節の生成と展開：語り芸の動態史にむけて』

真鍋昌賢・延廣真治(訳)、せりか書房、4,840円

『日中比較芸能史(オンデマンド版)』

誠訪春雄、吉川弘文館、13,750円

『日本の伝統文化・風習レファレンスブック』

日外アソシエーツ株式会社(編)、日外アソシエーツ、10,450円

『日本の流行歌：栄枯盛衰の100年、そしてこれから』	生明俊雄、ミネルヴァ書房、2,640円
『人形演劇の現在：モノ、モノ遣い、アクター』	ボイド眞理子、上智大学出版、3,080円
『熱帯の真実』カエターノ・ヴェローヴ(著)、国安真奈(訳)、	アルテスパブリッシング、4,620円
『東アジア青銅器時代の研究』宮本一夫、勉誠出版、24,200円	
『フォルマシオン・ミュジカル ジュニアのための 名曲で学ぶ音楽の基礎：楽典・ソルフェージュから音楽史まで』	舟橋三十子、音楽之友社、1,870円
『布教技法としての節談』直林不退、永田文昌堂、2,530円	
『ブラームスを演奏する』 クライヴ・ブラウンほか(著)、	天崎浩二・福原彰美(訳)、音楽之友社、2,420円
『ブルースだってただの唄：黒人女性の仕事と生活』	藤本和子、筑摩書房、990円
『ベートーヴェンと日本人』 浦久俊彦、新潮社、902円	
『ベートーヴェン：音楽の革命はいかに成し遂げられたか』	中野雄、文芸春秋、902円
『ポイントがひと目でわかる！バッハ インヴェンション：アナリーゼと連弾を生かした指導法』	佐々木邦雄、音楽之友社、1,980円
『ホロコーストから届く声：非常事態と人のこころ』	猪股剛・W.ギーグリッヒほか(著)、左右社、3,080円
『「みえない関係性」をみせる（グローバル関係学5）』	福田宏・後藤絵美(編)、岩波書店、2,860円
『ミツバチと文明：宗教、芸術から科学、政治まで文化を形づくった偉大な昆虫の物語』	
『クレア・プレストン(著)、倉橋俊介(訳)、草思社、1,980円	
『みんなの民俗学：ヴァナキュラーってなんだ？』	島村恭則、平凡社、968円
『名作の技から学ぶ：ゲームミュージック作曲テクニック』	平沢栄司、グラフィック社、2,420円
『メタルとパンクの相関関係』 行川和彦・奥野高久(著)、	
『シムコーキュージックエンタテイメント、1,980円	
『ユーモア解体新書：笑いをめぐる人間学の試み』	
(大阪市立大学文学研究科叢書；11)』	
佐金武ほか(編)、清文堂出版、8,250円	
『ようこそ！トイピアノの世界へ：世界のトイピアノ入門ガイドブック』 飯田有抄、カワイ出版、1,870円	
『ヨーコ・オノ・レノン全史 The Ballad Of John & Yoko』	
和久井光司、河出書房新社、3,520円	
『ライフワークの探究者たち』鈴木隆、みやび出版、1,980円	
『ルネサンス・初期バロックの歌唱法：イギリス・イタリアの演奏習慣を探る』	
ロバート・トフト(著)、高久桂(訳)、道和書院、5,500円	

『私の音楽留学』 坂本里沙子、群像社、990円

新発売視聴覚資料

●CD

『J. S. バッハ ゴルトベルク変奏曲 : Jean-Sébastien BACH

『Variations Goldberg - The Art of Koto -』

みやざきみえこ、VZCG-835、3,300円

『traditional ヒーリング

～自然音と和楽器によるスピリチュアルサウンド～』

米川敏子ほか、COCJ-41310、2,200円

『明けもどろの賦 -沖縄胡弓の今昔-』

上地呂敏ほか、VZCG-836、3,300円

『一心／英松竹梅』 おもだか秋子、VZCG-10583、1,320円

『加賀山 昭 民謡集～うた探し 夢探し～』

加賀山昭、VZCG-834、2,750円

『しなやかに…島うた』 新垣成世、NARISE-001、2,200円

『雙 -SO-』 藤原道山ほか、COCQ-85515、3,520円

編集後記

会報111号をお届けいたします。本号は、昨年11月に行われた第71回大会の記事が中心です。

今回の大会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況のなか、大会としては初めてのオンライン開催となりました。学会ウェブサイトとZoomのビデオ会議システムを利用して、録画の配信とリアルタイムのオンライン会議の両方を併用する方法で行なわれました。大会実行委員会の綿密な準備のもと、シンポジウム、公開演奏会、研究発表のそれぞれに大きな実りがあり、多くの方がご参加ください、オンラインならではのメリットを感じられる充実した大会となりました。

お忙しいなか、会報のために大会レポートをご執筆くださいました皆様に、心より、お礼を申し上げます。

本号は、2019年5月号から編集を担当している会報編集委員会にとって、最後の号でもあります。次号からは、メンバーの一部が交代し、新しい会報編集委員会による会報をお届けいたします。

引き続き、皆様の暖かいご支援とご協力をたまわりますよう、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。 野川美穂子

会報編集委員会

理事：久万田晋、野川美穂子

参事：今泉佳奈、木岡史明、土田まどか、中川優子、横山洸

第9回定時社員総会議事録（抄）・添付書類

1. 日時：令和2（2020）年11月7日（土）17:10～18:25

2. 場所：新型コロナウィルス感染拡大の影響により

オンライン（Zoom）で開催

3. 出席者：303名

（出席51名、委任状提出139名、書面議決113名）

〔備考〕正会員 543名、定足数 272名

4. 議事事項と審議の経過及び結果

定款第19条により植村幸生会長が議長となり、定足数を確認の上、開会を宣言した。次いで定款施行細則第16条により副議長を要請し、遠藤美奈、笠井純一、両氏が選出された後、以下の議事を開始した。

第1号議案 役員選任の件

塚原康子選挙管理委員長より「役員選出資料」〔添付書類1（修正版）〕について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数（書面による原案賛成を含む）の賛成を得て可決承認された。

第2号議案 2019年度（令和元年度）事業報告の件

小塩さとみ理事（総務担当）より「令和元年度（2019年度）事業報告」〔添付書類2-1〕、「処務の概要」〔添付書類2-2〕について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数（書面による原案賛成を含む）の賛成を得て可決承認された。

第3号議案 2019年度（令和元年度）収支決算の件

前原恵美理事（経理担当）より「収支計算書」〔添付書類3-1〕、「収支計算書内訳表」〔添付書類3-2（修正版）〕について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数（書面による原案賛成を含む）の賛成を得て可決承認された。

第4号議案 2020年（令和2年）8月31日現在貸借対照表および正味財産増減計算書の件

前原恵美理事より「貸借対照表」〔添付書類4-1〕、「貸借対照表内訳表」〔添付書類4-2〕、「正味財産増減計算書」〔添付書類4-3〕、について説明があった。

岡崎淑子監事より「監査報告書」〔添付書類8〕について説明があり、監査報告があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数（書面による原案賛成を含む）の賛成を得て可決承認された。

第5号議案 2020年（令和2年）8月31日現在会員異動状況の件

小塩さとみ理事より「会員の異動状況（2019年9月1日～2020年8月31日）」「添付書類5」について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数（書面による原案賛成を含む）の賛成を得て可決承認された。

第6号議案 その他

議長が議場に対して発議を促したが、その他の議案は出されなかった。

審議終了後、小塩さとみ理事が「2020年度（令和2年度）事業計画の件」〔添付資料6〕について報告し、前原恵美理事（経理担当）が「2020年度（令和2年度）収支予算の件」〔添付資料7〕について報告した。

続いて、当学会からの派遣委員である澤田篤子会員より、音楽文献目録委員会（RILM）に関する活動報告があり、『音楽文献目録』の公開は2021年4月より冊子からWeb検索システムへ完全移行することになると説明があった。

※「2020年度（令和2年度）事業計画の件」〔添付資料6〕については、『会報』第109号（2020年5月15日発行）14・15ページの[第16回通常理事会 添付書類1]をご覧ください

※「2020年度（令和2年度）収支予算の件」〔添付資料7〕については、『会報』第109号（同上）16・17ページの[第16回通常理事会 添付書類2]をご覧ください。

[添付書類1：修正版] 役員選出資料

1. 2020年度役員選挙開票結果

(1) 有権者数	562名 (2020年7月22日現在)	当選6	26票	奥中 康人
(2) 被選挙権停止者数	6名	当選7	25票	奥山 けい子
(3) 被選挙権休止者数	11名	当選8	23票	加納 マリ
(4) 投票用紙発送日	2020年7月22日 (水)	当選9	22票	澤田 篤子
(5) 投票締切日	2020年9月1日 (火) 消印有効	次点11	21票	竹内 有一
(6) 開票日時	2020年9月10日 (木)	次点11	21票	藤田 隆則
	午前10時より午後6時30分	13	20票	前原 恵美
(7) 開票場所	東京藝術大学音楽学部5号館3階5-313室	13	20票	田中 多佳子
(8) 開票に立ち会った会員数	0名	15	19票	増野 亜子
(9) 投票者数	147名 (投票率 26.2%)	16	18票	横井 雅子
(10) 有効封筒数	145通	17	17票	高松 晃子
	(無効投票2、内訳:無記名1、締切後消印/開票日後到着1)	18	13票	小日向 英俊
		18	13票	井上 貴子
		18	13票	金光 真理子
(11) 開票結果		18	13票	ゴチエフスキ、ヘルマン
①監事	総票数 290票	18	13票	近藤 静乃
	有効投票数 289票	22	12票	ギラン、マット
	無効投票数 1票	22	12票	黒川 真理恵
	白票 38票	22	12票	寺田 吉孝
		22	12票	ネルソン、スティーブン G.
		26	11票	田中 美加
		27	10票	高瀬 澄子

順位 得票数 氏名

当選1	26票	蒲生 美津子
当選2	20票	樋口 昭
次点3	19票	岡崎 淑子
4	12票	小柴 はるみ
5	8票	澤田 篤子
6	6票	遠藤 徹
6	6票	加納 マリ
6	6票	水野 信男
9	5票	福岡 正太

(5票未満省略)

(10票未満省略)

2. 選出過程

① 選出方法

理事・監事の選出については、定款施行細則第3条から第13条までの各条に準拠し、選挙管理委員会の定める選出要項に基づいて行なわれた。

② 監事の選出

9月10日に①の通り開票を行い、集計結果を出した。その後、当選者の樋口昭氏より就任を辞退する旨の申し出があった。選挙管理委員会においてその理由を質したところ、やむを得ない理由があるものと認めた。よって次点者の繰り上げ当選を総会に諮ることとした。

③ 理事の選出

9月10日に①の通り開票を行い、集計結果を出した。これらの選出者、順位、票数を付記した結果は、最高得票者および会長に報告した。また、その結果は最高得票者を通して選出理事にも知られた。

定款施行細則第8条に基づき、選挙管理委員会は、理事当選者10名に対して、他の5名を合議することを求めた。合議の結果、藤田隆則、前原恵美、田中多佳子、増野亜子、小日向英俊の5名が理事として推薦された。

②理事 総票数 1160票

有効投票数 1156票

無効投票数 4票

白票 126票

順位 得票数 氏名

当選1	60票	福岡 正太
当選2	56票	植村 幸生
当選3	38票	遠藤 徹
当選4	37票	久万田 晋
当選5	36票	尾高 曜子

3. 2020年度役員選任原案

(1) 監事 2名

蒲生 美津子 岡崎 淑子

(2) 理事 15名

植村 幸生	澤田 篤子
遠藤 徹	竹内 有一
奥中 康人	田中 多佳子
奥山 けい子	福岡 正太
尾高 曜子	藤田 隆則
加納 マリ	前原 恵美
久万田 晋	増野 亜子
小日向 英俊	

(一社) 東洋音楽学会 2020年度選挙管理委員会

塚原 康子 (委員長)
前島 美保 (副委員長)
青木 慧
太田 郁
鎌田 紗弓

[添付書類2-1]

令和元年度(2019年度)事業報告

(自令和元年(2019年)9月1日 至令和2年(2020年)8月31日)

〔1〕研究発表会および学術講演会の開催(定款第5条1)

(1)公開講演会の実施(定款施行細則第3条1)

・日時 2019年11月16日

・会場 京都市立芸術大学

・課題 「語りの立体化そして復曲—狂言、能、題目立—」

(2)研究発表大会の実施(定款施行細則第3条2)

・日時 2019年11月17日

・会場 京都市立芸術大学

・発表件数27件

(パネルディスカッション、共同発表、セッションを含む)

(3)次年度大会の準備

・日時 2020年11月7日・8日

・会場 東京音楽大学池袋キャンパス

(4)定例研究会(定款施行細則第3条3)

○東日本支部

・回数 3回(第112・113・117回 12月、2月、7月、114-116回は中止・延期)

・会場 東京藝術大学音楽学部、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス、Zoomによるオンライン開催

・内容 研究発表および報告

○西日本支部

・回数 1回(第286回 8月)

・会場 オンライン開催

・内容 書評会

○沖縄支部

・回数 2回(第73回～第74回 2月・6月)

・会場 沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス、Zoomによるオンライン開催

・内容 研究発表・座談会

〔2〕学会誌および学術図書の刊行(定款第5条2)

(5)機関誌『東洋音楽研究』の刊行(定款施行細則第3条4)

○第85号の編集、刊行(2020年8月31日発行)

・内容 論文、研究ノート、資料紹介、書評ほか

(6)会報の刊行

○『東洋音楽学会会報』

・第107号(2019年9月)、第108号(2020年1月)、第109号(2020年5月)

・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、大会レポート、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

○『東日本支部だより』

・第51号(2019年11月)、第52号(2020年3月)、第53号(2020年6月)

・内容 東日本支部定例研究会の開催案内・報告、会員の声ほか

○『西日本支部だより』

・第92号(2020年8月)

・内容 西日本支部定例研究会の開催案内・報告

○『沖縄支部通信』

・第41号(2020年3月)、第42号(2020年8月)

・内容 定例研究会案内・報告

〔3〕関連学協会との連絡および協力(定款第5条3)

(7)日本学術会議への協力

○日本学術会議協力学術研究団体として協力

(8)音楽文献目録委員会への参加

○会員田中美加、澤田篤子、米野みちよの3氏を委員として派遣

(9)国際伝統音楽学会(ICTM)への協力

○日本国内委員会として加盟

(10)藝術学関連学会連合への参加

○会員植村幸生氏を委員として派遣

(11)東洋学・アジア研究連絡協議会への参加

○オブザーバーとして参加

〔4〕研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条4)

(12)「田邊尚雄賞」(定款施行細則第3条5)

第36回田邊尚雄賞の授賞

・日時 2019年11月16日

・受賞者および授賞対象

田中 有紀 『中国の音楽思想：朱載堉と十二平均律』

(東京大学出版会、2018年9月21日発行)

ISBN978-4-13-016037-7

○第37回田邊尚雄賞の選考と発表

・受賞者および授賞対象

柳沢 英輔 『ベトナムの大地にゴングが響く』

(幻光舎、2019年11月1日発行)

ISBN978-4-909992-00-0

〔5〕研究および調査(定款第5条5)

(13)国内または国外における学術調査および研究

とくになし

〔6〕その他目的を達成するために必要な事項(定款第5条6)

(14)東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

・独立行政法人科学技術振興機構(JST)電子アーカイブ事業への参加

(16)学会創立80周年記念関連事業

(17)関連企画の後援 なし

(18)人間文化研究機構国立民族学博物館との連携に関する協定

[添付書類2-2]

2. 処務の概要

[1] 役員等に関する事項

2019年度(令和元年度)末現在

職名	勤務	氏名	任期(開始)	担当職務	報酬	所属など
理事	非常勤	植村 幸生	2018/11/10	会長、総務 ※会長就任日は11/11	なし	東京藝術大学
理事	非常勤	野川 美穂子	2018/11/10	副会長、広報	なし	東京藝術大学・武蔵野音楽大学・東海大学
理事	非常勤	奥山 けい子	2018/11/10	東日本支部長	なし	東京成徳大学
理事	非常勤	福岡 正太	2018/11/10	西日本支部長	なし	国立民族学博物館
理事	非常勤	小西 潤子	2018/11/10	沖縄支部長	なし	沖縄県立芸術大学音楽学部
理事	非常勤	梅田 英春	2018/11/10	機関誌	なし	静岡文化芸術大学文化政策学部
理事	非常勤	奥中 康人	2018/11/10	機関誌	なし	静岡文化芸術大学
理事	非常勤	小塩 さとみ	2018/11/10	総務(常務理事)	なし	宮城教育大学
理事	非常勤	尾高 曜子	2018/11/10	東日本支部担当	なし	東京藝術大学、慶應義塾大学
理事	非常勤	加納 マリ	2018/11/10	機関誌	なし	日本音楽研究家
理事	非常勤	久万田 晋	2018/11/10	総務、広報(常務理事)	なし	沖縄県立芸術大学附属研究所
理事	非常勤	田中 多佳子	2018/11/10	総務、西日本支部(常任理事)	なし	京都教育大学
理事	非常勤	福岡 まどか	2018/11/10	総務、西日本支部担当	なし	大阪大学
理事	非常勤	前原 恵美 (本姓 笠原)	2018/11/10	経理(常務理事)	なし	東京文化財研究所
理事	非常勤	早稲田 みな子	2018/11/10	経理(常務理事)	なし	東京藝術大学
監事	非常勤	岡崎 淑子	2019/11/16	監査	なし	聖心女子大学
監事	非常勤	塙田 健一	2018/11/10	監査(～2019年9月)	なし	広島市立大学名誉教授
監事	非常勤	樋口 昭	2018/11/10	監査	なし	埼玉大学名誉教授

参与 酒井諒

支部委員 [東日本支部] 井上貴子、金光真理子、金志善、黒川真理恵、越懸澤麻衣、
 ヘルマン・ゴチェフスキ、佐藤文香、土田牧子、東田範子、福田千絵、森田都紀
 [西日本支部] 明木茂夫、上野正章、梶丸岳、菌田郁、出口実紀、柳沢英輔
 [沖縄支部] 遠藤美奈、古謝麻耶子、長嶺亮子

参事 [本部] 青木慧、今泉佳奈(2020年4月～)、鎌田紗弓、木岡史明、鈴木麻菜美(担当変更)、
 土田まどか、中川優子、仲辻真帆、久岡加枝(～2019年9月)、牧野翔、丸山彩、
 安原道子(～2020年4月)、横山洸

[東日本支部] 小尾淳、鯨井正子、倉脇雅子、齊藤紀子、佐竹悦子、澤田聖也、
 曽村みづき、武田有里(2019年9月～)、鄭曉麗、増田久未、水上えり子、村山佳寿子
 [西日本支部] 井上春緒、神野知恵、古澤瑞希(2019年9月～)
 [沖縄支部] 小川惠祐(2020年4月～)、多和田真理

〔2〕職員に関する事項

2019年度(令和元年度)末現在

職名	氏名	採用年月日	担当事務	手当	交通費	備考
職員	金子由美子	1997/10/22	事務一般	月額80,000円	実費支給	

〔3〕会議等に関する事項

(1)理事会

開催年月日	議事事項	会議の結果
第15回通常理事会 2019年9月28日 (令和元)	1. 新入会員承認の件 2. 平成30年度事業報告の件 3. 令和元年8月31日現在 財務諸表の件 4. 平成30年度総括収支決算の件 5. 長期滞納者処理の件 6. 令和元年8月31日現在 会員異動状況の件 7. 参事委嘱の件 8.(1)監事の交代について (2)『東洋音楽研究』査読規程の制定について (3)東洋音楽学会と国立民族学博物館との交流協定について (4)監査報告について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 報告
第16回通常理事会 2020年4月5日 (令和2)	1. 新入会員承認の件 2. 令和2年度研究発表大会および公開講演会の件 3. 令和2年度事業計画の件 4. 令和2年度収支予算の件 5. 第37回「田邊尚雄賞」受賞者決定の件 6. 第38回「田邊尚雄賞」選考委員選任の件 7. 長期滞納者処理の件 8. 参事委嘱の件 9. 次期理事定数および支部委員定数の件 10. (1)令和2年度日本学術振興会育志賞の学会推薦について (2)コロナウィルス感染拡大に伴う事務職員の勤務形態の変更について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
臨時理事会 2020年(令和2) 8月13日～20日	1. RILMにおける『東洋音楽研究』のデジタル公開について	否決

(2)総会

開催年月日	議事事項	会議の結果
第8回定期社員総会 2019年11月16日 (令和元)	1. 平成30(2018)年度事業報告の件 2. 平成30(2018)年度収支決算の件 3. 令和元(2019)年8月31日現在貸借対照表 および正味財産増減計算書の件 4. 令和元(2019)年8月31日現在会員異動状況の件 5. 監事の退任および後任監事選任について ・令和元(2019)年度事業計画の件 ・令和元(2019)年度収支予算の件 ・東洋音楽学会と国立民族学博物館との連携に関する協定 締結の件	承認 承認 承認 承認 承認 報告 報告 報告

(3) 各種委員会 (○印は責任者)

●会報編集委員会

○野川美穂子、今泉佳奈(2020年4月～)、木岡史明、久万田晋、土田まどか、中川優子、安原道子(～2020年4月)、横山洸

●機関誌編集委員会

○梅田英春、奥中康人、加納マリ、東谷護、前島美保

●情報委員会

○田中多佳子、上野正章、岡田恵美、小日向英俊、佐竹悦子

●第37回田邊尚雄賞選考委員会

○近藤静乃、小西潤子、田中美加、伏木香織、前原恵美

●80周年関連事業推進委員会

○遠藤徹、田中多佳子、川崎瑞穂、比嘉舞

[添付書類3-1]

一般社団法人東洋音楽学会

収 支 計 算 書

令和元年9月1日から令和2年8月31日まで

(単位:円)

科 目	年度予算額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	1,000	698	302	
基本財産利息収入	1,000	698	302	
特定資産運用収入	1,000	204	796	
特定資産利息収入	1,000	204	796	
入会金収入	0	0	0	
会費収入	4,610,000	4,283,000	327,000	
正会員会費収入	4,300,000	4,013,000	287,000	
賛助会員会費収入	150,000	150,000	0	
特別会員会費収入	160,000	120,000	40,000	
事業収入	1,342,500	1,434,695	△ 92,195	
機関誌発行収入	400,000	342,000	58,000	
大会広告料収入	452,500	465,695	△ 13,195	
大会参加費収入	270,000	323,000	△ 53,000	
懇親会費収入	170,000	262,000	△ 92,000	
食料費収入	50,000	42,000	8,000	
その他事業収入	0	0	0	
補助金等収入	0	0	0	
負担金収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
雑収入	0	92	△ 92	
受取利息収入	0	7	△ 7	
雑収入	0	85	△ 85	
他会計振替額	1,230,000	1,115,896	114,104	
本部会計振替収入	1,230,000	752,552	477,448	
大会会計振替収入	0	363,344	△ 363,344	
東日本支部会計振替収入	0	0	0	
西日本支部会計振替収入	0	0	0	
沖縄支部会計振替収入	0	0	0	
事業活動収入計	7,184,500	6,834,585	349,915	
2. 事業活動支出				
事業費支出				
給料手当支出	6,972,500	5,299,819	1,672,681	
臨時雇賃金支出	1,200,000	1,084,637	115,363	
法定福利厚生費支出	40,000	19,850	20,150	
旅費交通費支出	5,000	4,388	612	
通信運搬費支出	547,000	256,028	290,972	
消耗什器備品費支出	950,000	654,075	295,925	
消耗品費支出	0	0	0	
賃借料支出	68,000	34,339	33,661	
印刷製本費支出	800,000	761,622	38,378	
諸謝金支出	780,000	636,623	143,377	
租税公課支出	500,000	145,450	354,550	
負担金支出	10,000	10,600	△ 600	
会議費支出	190,000	172,000	18,000	
広報普及費支出	51,000	4,718	46,282	
田邊尚雄賞関連費支出	362,000	360,874	1,126	
会場運営費支出	220,000	112,284	107,716	
機関誌作成費支出	0	0	0	
例会運営費支出	800,000	708,341	91,659	
懇親会費支出	144,000	9,300	134,700	
保険料支出	170,000	220,000	△ 50,000	
80周年関連費支出	0	0	0	
食料費支出 (雑支出①)	70,000	55,676	14,324	

一般社団法人東洋音楽学会

(単位:円)

科 目	年度予算額	決 算 額	差 異	備 考
慶弔費支出(雑支出②)	20,000	16,500	3,500	
手数料支出(雑支出③)	29,000	18,326	10,674	
雑支出(雑支出④)	16,500	14,188	2,312	
管理費支出	540,000	550,000	△ 10,000	
事務委託費支出	540,000	550,000	△ 10,000	
他会計振替額	1,230,000	1,115,896	114,104	
本部会計振替額	0	363,344	△ 363,344	
大会会計振替額	200,000	0	200,000	
東日本支部会計振替額	560,000	403,113	156,887	
西日本支部会計振替額	400,000	328,755	71,245	
沖縄支部会計振替額	70,000	20,684	49,316	
事業活動支出計	8,742,500	6,965,715	1,776,785	
法人税等の支払額	0	0	0	
事業活動収支差額	△ 1,558,000	△ 131,130	△ 1,426,870	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
基本財産取崩収入	0	0	0	
特定基金取崩収入	1,600,000	520,000	1,080,000	
田邊尚雄賞基金取崩収入	350,000	220,000	130,000	
研究推進事業基金取崩収入	1,250,000	300,000	950,000	
固定資産売却収入	0	0	0	
投資有価証券売却収入	0	0	0	
敷金・保証金戻収入	0	0	0	
投資活動収入計	1,600,000	520,000	1,080,000	
2. 投資活動支出				
基本財産取得支出	0	0	0	
特定資産取得支出	0	0	0	
固定資産取得支出	0	0	0	
投資有価証券取得支出	0	0	0	
敷金・保証金支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	1,600,000	520,000	1,080,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
借入金収入	0	0	0	
基金受入収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
借入金返済支出	0	0	0	
基金返還支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
予備費支出	△ 42,000	0	△ 42,000	
当期収支差額	0	388,870	△ 388,870	
前期繰越収支差額	0	1,052,773	△ 1,052,773	
次期繰越収支差額	0	1,441,643	△ 1,441,643	

[添付書類4-1]

一般社団法人東洋音楽学会
(様式1-1)

貸 借 対 照 表

令和2年8月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,231,983	1,197,207	34,776
未収金	684,000	342,000	342,000
前渡金	200,000	200,000	0
仮払金	21,160	38,126	△ 16,966
流動資産合計	2,137,143	1,777,333	359,810
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,200,000	5,200,000	0
基本財産合計	5,200,000	5,200,000	0
(2) 特定資産			
研究推進事業基金	6,946,000	7,246,000	△ 300,000
田邊尚雄賞基金	1,240,000	1,460,000	△ 220,000
特定資産合計	8,186,000	8,706,000	△ 520,000
(3) その他固定資産			
什器備品	8	2,038	△ 2,030
書籍	363,500	363,500	0
差入敷金	300,000	300,000	0
電話加入権	4,000	4,000	0
その他の固定資産合計	667,508	669,538	△ 2,030
固定資産合計	14,053,508	14,575,538	△ 522,030
資産合計	16,190,651	16,352,871	△ 162,220
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	220,000	268,060	△ 48,060
前受金	475,500	456,500	19,000
流動負債合計	695,500	724,560	△ 29,060
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	695,500	724,560	△ 29,060
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
その他一般正味財産	15,495,151	15,628,311	△ 133,160
(うち基本財産への充当額)	(5,200,000)	(5,200,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(8,186,000)	(8,706,000)	(△ 520,000)
一般正味財産	15,495,151	15,628,311	△ 133,160
正味財産合計	15,495,151	15,628,311	△ 133,160
負債及び正味財産合計	16,190,651	16,352,871	△ 162,220

注記

当学会は実施事業資産として下記のものと有している。

書籍 價額 363,500円

[添付書類4-2]

一般社団法人東洋音楽学会
(様式1-3)

貸借対照表 内訳表

令和2年8月31日現在

(単位:円)

勘定科目	本部	大会会計	東日本支部	西日本支部	沖縄支部	内部取引消去	合計
I 資産の部							
1. 流動資産							
現金預金	568,323	200,000	157,350	255,680	50,630	0	1,231,983
未収金	684,000	0	0	0	0	0	684,000
前渡金	200,000	0	0	0	0	0	0
仮払金	21,160	0	0	0	0	0	21,160
流動資産合計	1,473,483	200,000	157,350	255,680	50,630	△ 200,000	1,937,143
2. 固定資産							
(1) 基本財産							
定期預金	5,200,000	0	0	0	0	0	5,200,000
基本財産合計	5,200,000	0	0	0	0	0	5,200,000
(2) 特定資産							
研究推進事業基金	6,946,000	0	0	0	0	0	6,946,000
田邊尚雄賞基金	1,240,000	0	0	0	0	0	1,240,000
特定資産合計	8,186,000	0	0	0	0	0	8,186,000
(3) その他固定資産							
什器備品	8	0	0	0	0	0	8
書籍	363,500	0	0	0	0	0	363,500
差入敷金	300,000	0	0	0	0	0	300,000
電話加入権	4,000	0	0	0	0	0	4,000
その他の固定資産合計	667,508	0	0	0	0	0	667,508
固定資産合計	14,053,508	0	0	0	0	0	14,053,508
資産合計	15,526,991	200,000	157,350	255,680	50,630	△ 200,000	15,990,651
II 負債の部							
1. 流動負債							
未払金	220,000	0	0	0	0	0	220,000
前受金	275,500	200,000	0	0	0	△ 200,000	275,500
流動負債合計	495,500	200,000	0	0	0	△ 200,000	495,500
2. 固定負債							
固定負債合計	0	0	0	0	0	0	0
負債合計	495,500	200,000	0	0	0	△ 200,000	495,500
III 正味財産の部							
1. 指定正味財産	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産							
その他一般正味財産	15,031,491	0	157,350	255,680	50,630	0	15,495,151
(うち基本財産への充当額)	(5,200,000)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(5,200,000)
(うち特定資産への充当額)	(8,186,000)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(8,186,000)
一般正味財産	15,031,491	0	157,350	255,680	50,630	0	15,495,151
正味財産合計	15,031,491	0	157,350	255,680	50,630	0	15,495,151
負債及び正味財産合計	15,526,991	200,000	157,350	255,680	50,630	△ 200,000	15,990,651

[添付書類4-3]

一般社団法人東洋音楽学会
(様式2-1)

正味財産増減計算書
令和元年9月1日から令和2年8月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 経常収支の部			
(1) 事業活動収入			
基本財産運用収入	698	652	46
基本財産受取利息	698	652	46
特定資産運用益	204	187	17
特定資産受取利息	204	187	17
会費収入	4,283,000	3,979,500	303,500
正会員受取会費	4,013,000	3,669,500	343,500
賛助会員受取会費	150,000	150,000	0
特別会員受取会費	120,000	160,000	△ 40,000
事業収入	1,434,695	1,677,500	△ 242,805
機関誌発行収入	342,000	342,000	0
大会広告料収入	465,695	635,000	△ 169,305
大会参加費収入	323,000	371,500	△ 48,500
懇親会費収入	262,000	290,000	△ 28,000
食料費収入	42,000	39,000	3,000
その他事業収入	0	0	0
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
雑収入	92	5	87
受取利息	7	5	2
雑収入	85	0	85
他会計振替額	1,115,896	1,063,286	52,610
本部会計振替額	752,552	1,003,437	△ 250,885
大会会計振替額	363,344	59,849	303,495
東日本支部会計振替額	0	0	0
西日本支部会計振替額	0	0	0
沖縄支部会計振替額	0	0	0
経常収益計	6,834,585	6,721,130	113,455
(2) 事業活動支出			
事業費			
給料手当	5,301,849	7,021,890	△ 1,720,041
臨時雇賃金	1,084,637	1,163,322	△ 78,685
法定福利厚生費	19,850	206,102	△ 186,252
旅費交通費	4,388	4,711	△ 323
通信運搬費	256,028	505,333	△ 249,305
消耗品什器備品費	654,075	797,394	△ 143,319
消耗品費	0	0	0
賃借料	34,339	65,004	△ 30,665
印刷製本費	761,622	805,893	△ 44,271
諸謝金	636,623	636,777	△ 154
租税公課	145,450	120,000	25,450
支払負担金	10,600	11,050	△ 450
会議費	172,000	187,000	△ 15,000
広報普及費	4,718	8,032	△ 3,314
減価償却費	360,874	361,772	△ 898
田邊尚雄賞関連費	2,030	2,030	0
会場運営費	112,284	356,597	△ 244,313
機関誌作成費	0	186,921	△ 186,921
例会運営費	708,341	820,704	△ 112,363
懇親会費	9,300	137,370	△ 128,070
保険料	220,000	262,960	△ 42,960
	0	0	0

一般社団法人東洋音楽学会

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
80周年関連費	0	228,980	△ 228,980
食料費（雑費①）	55,676	73,256	△ 17,580
慶弔費（雑費②）	16,500	0	16,500
手数料（雑費③）	18,326	23,211	△ 4,885
雑費（雑費④）	14,188	57,471	△ 43,283
管理費	550,000	540,000	10,000
事務委託費	550,000	540,000	10,000
他会計振替額	1,115,896	1,063,286	52,610
本部会計振替額	363,344	59,849	303,495
大会会計振替額	0	0	0
東日本支部会計振替額	403,113	566,292	△ 163,179
西日本支部会計振替額	328,755	388,659	△ 59,904
沖縄支部会計振替額	20,684	48,486	△ 27,802
経常費用計	6,967,745	8,625,176	△ 1,657,431
評価損益調整前経常増減額	△ 133,160	△ 1,904,046	1,770,886
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 133,160	△ 1,904,046	1,770,886
2. 経常外収支の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産売却損	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0
固定資産減損損失	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 133,160	△ 1,904,046	1,770,886
一般正味財産増減額	△ 133,160	△ 1,904,046	1,770,886
一般正味財産期首残高	15,628,311	17,532,357	△ 1,904,046
一般正味財産期末残高	15,495,151	15,628,311	△ 133,160
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
基本財産評価益	0	0	0
特定資産評価益	0	0	0
基本財産評価損	0	0	0
特定資産評価損	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	15,495,151	15,628,311	△ 133,160

[添付書類5]

会員の異動状況 (2019年(令和元年)9月1日～2020年(令和2年)8月31日)

●：東日本支部、◆：西日本支部、■：沖縄支部、#：海外在住

会員種別	会員数		増減	異動の内訳
	2019.9.1	2020.8.31		
正会員	573	554	-19	新入+12、学生より+1、退会-28、逝去-4
学生会員	4	11	+7	新入+8、正会員-1
賛助会員	3	3	0	
特別会員	7	7	0	
名誉会員	1	1	0	
	588	576	-12	

[添付書類8]

監査報告書

一般社団法人 東洋音楽学会

会長 植村 幸生 殿

令和2年9月23日

(2020年)

監事

令和2年9月23日

(2020年)

監事

私たちはそれぞれ、令和元年9月1日から令和2年8月31日までの令和元年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、会計帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて財務諸表等の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 令和元年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに収支計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の財産状態及び収支状況を正しく表示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書に関して監査を行った結果、正しく実施されていることを認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。

以上

